

# AC外部給電システム (ヴィークルパワーコネクター)の使い方

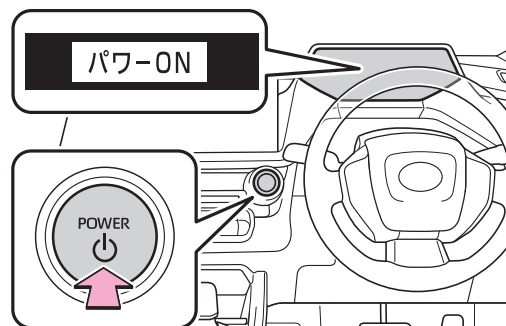
## プリウス (PHEV)

### マルチインフォメーションディスプレイでの操作の場合

※マルチメディアディスプレイでの操作も可能です。

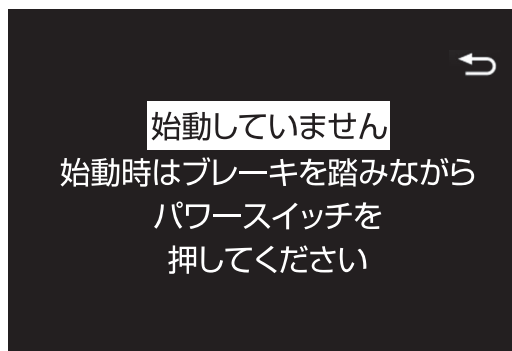
- 1 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押して、ONにする。

メーターに“パワーON”と表示されていることを確認してください。  
ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動してしまい、AC外部給電システムが使用できません。  
ONにしたあとは、シフトレバーを操作しないでください。シフトポジションがPでないと、AC外部給電システムを使用できません。



- 2 始動操作に関するアドバイス画面が表示されたときは、メーター操作スイッチの $\square$ を押して前の画面にもどす。

一定時間、メーター操作スイッチを操作しないと、始動操作に関するアドバイス画面が再表示されます。  
その場合は、そのつど $\square$ を押して前の画面にもどしてください。



- 3 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して $\text{⚙}$ を選択する。




- 4 メーター操作スイッチの $\blacktriangleleft$ または $\blacktriangleright$ を押して“ $\text{⚙}$ 車両設定”を選択し、 $\text{OK}$ を押し続ける。

- 5 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“外部給電”を選択し、 $\text{OK}$ を押す。

外部給電モードの選択画面が表示されます。



6

メーター操作スイッチの  または  を押して  
ご希望の外部給電モードを選択し、 を押す。

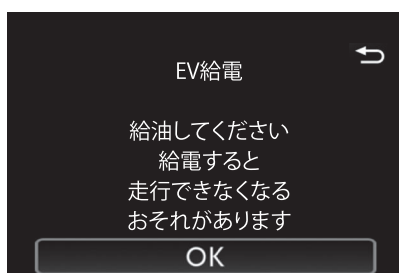
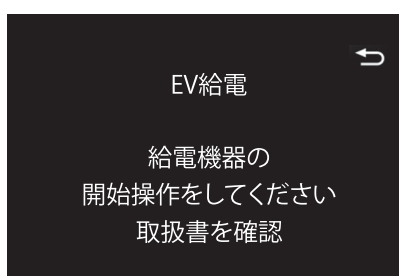
外部給電モードの選択画面上に、各モードでの外部給電可能時間の  
目安が表示されます。



#### EV給電モードを選択した場合


7

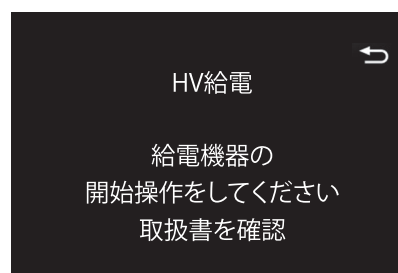
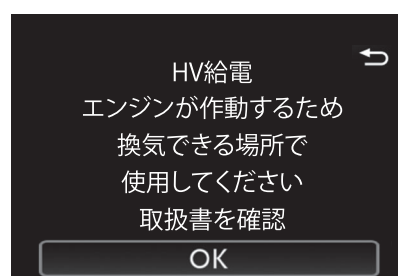
操作ガイド画面の表示に従う。



#### HV給電モードを選択した場合

7

使用上の注意に関する画面を確認して  
 を押し、操作ガイド画面の表示に従う。



8

ヴィークルパワーコネクターを用意する。

ヴィークルパワーコネクターに異常がないことを確認してください。

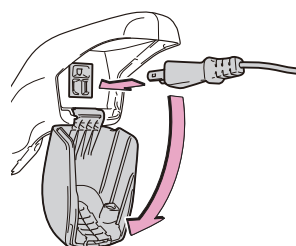


ヴィークルパワーコネクター

9

ヴィークルパワーコネクターの  
防水カバーを開け、使用する電気製品の  
電源プラグを車外コンセントに接続する。

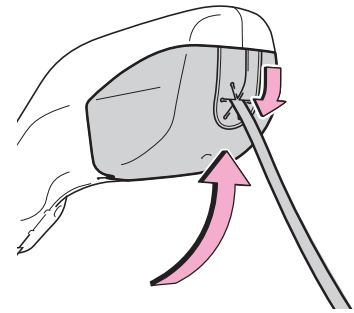
電源プラグは奥までしっかり押し込んでください。



10

## 防水ゴムに電源コードを通し、防水カバーを閉じる。

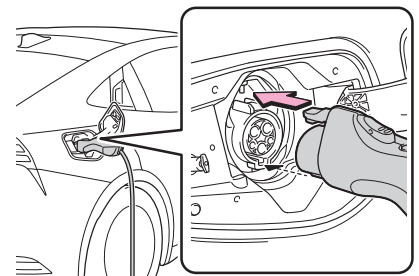
防水カバーがロックされたことを確認してください。



11

## 充電リッドを開け、ヴィークルパワーコネクターを普通充電インレットに接続する。

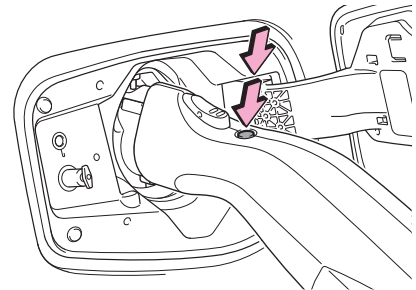
ヴィークルパワーコネクターの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込み、“カチッ”という音がして、確実にロックされたことを確認してください。



12

## ヴィークルパワーコネクターの電源スイッチを2回連続で押す。

充電ポートの充電インジケータがゆっくり点滅します。  
電源スイッチを2回連続で押す間隔が3秒以上空いたり、2回よりも多く押したりした場合は、充電インジケータは点滅しません。



13

## 充電インジケータが点灯したら、接続した電気製品の電源をONにする。

充電インジケータは一定時間点滅します。点滅中はAC外部給電が開始されていないため、点灯にかわるまでお待ちください。AC外部給電中は、マルチインフォメーションディスプレイの表示で、現在の外部給電状況をお知らせします。



### 2種類のモードについて

#### ■ EV給電モード

駆動用電池に蓄えられている電力のみを使用してAC外部給電を行います。外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、外部給電を終了します。

#### ■ HV給電モード ※必ず屋外(換気の良い場所)でご使用ください。

AC外部給電中に外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、エンジンが作動して外部給電を継続します。燃料残量警告灯が点灯すると、外部給電を終了します。

# AC外部給電システム (ヴィークルパワーコネクター) を安全にお使いいただく上での注意事項

お守りいただかないと思われ事故の原因となり、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。詳しくは取扱書をご覧くださいか販売店におたずねください。

## 【電源コード／配線】

■コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。 ■コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。 ■ヴィークルパワーコネクターの端子部が濡れないようにしてください。 ■ヴィークルパワーコネクターの車外コンセントに水や液体・雪がかからないようにしてください。 ■ヴィークルパワーコネクターと普通充電インレットは、変換アダプターや延長コードなどを使用せず、必ず直接接続してください。 ■車外コンセントに電源プラグを接続した後は、防水カバーを確実にロックがかかるまで閉じてください。防水カバーがロックできないような大きな電源プラグは使用しないでください。 ■ヴィークルパワーコネクターの上に重量物を置いたり、物を引っかけたりしないでください。

## 【使用する電気製品】

■使用する電気製品の取扱書の注意事項に従ってください。一般の電気製品の多くは自動車内や屋外での使用は想定されていないため、次のような問題が発生する可能性があります。 ●特に外気温が低いときや高いときでは、故障や作動不良になる可能性 ●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性 ■電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。 ■防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。 ■水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。 ■車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。 ■次のような電気製品は、消費電力の合計が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。 ●起動時の電力が大きい電気製品 ●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品 ●精密なデータ処理をする計測機器 ●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品 ●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

## 【使用する電気製品の消費電力】

■合計消費電力は1500W以下でご使用ください。1500Wを超えると保護機能が作動し、給電機能が停止します。 ■消費電力が大きな電気製品(ホットプレートなど)の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

## 【使用する電気製品の作動周波数】

■工場出荷時の電源周波数は車両によって異なります。車両の取扱説明書を確認し、電気製品の使用可能な周波数と車両の電源周波数が異なる場合は、販売店にご相談ください。

## 【車両の安全確保】

■次のことをお守りください。 ●使用中は車両から離れないでください。 ●誤って手を入れないようにボンネットは閉めてください。 ●地面が固く平らな場所に駐車し、できれば輪止めを設置してください。 ●必要に応じて、ドアやヴィークルパワーコネクターを施錠してください。 ■落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気づいたときは給電を停止してください。 ■HV 給電モードの場合、一部の自治体では駐車または停車中にエンジンを始動させると、条例に触れる可能性がありますのでご注意ください。

## 【換気】

■HV給電モードの場合、駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動する場合があります。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所(雪が積もった場所)などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

## 【外気温が高いとき】

■炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、給電機能が停止することがあります。その場合は、車両を日陰などに移動したり、エアコンを使用するなどして室内温度を下げてください。

## 【外気温が低いとき】

■特に外気温が低いときは、給電機能が作動できないことがあります。その場合は、車両を走行させるなどし、車両を暖めると使用できる可能性があります。

## 【エアコンの使用に関する警告】

■AC外部給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になり、重大な障害に及ぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。